

静岡県審判員・記録員伝達研修会を開催

平成27年2月21日（土）22日（日）の2日間にわたり、沼津市・ニューウェルサンピア沼津において、標記伝達研修会が開催された。この研修は、中央研修会、東海ブロック伝達研修会を経て、各県にて開催されるもので、県内各支部の代表者ら総勢約130名が参加した。

開講式では、NPO法人静岡県ソフトボール協会・森泰二郎会長が、2020年の東京オリンピックでの競技復活に向けて熱く語りかけた。また、同協会・中村善治理事長は、日本女子リーグ1部昇格を決めたNECプラットフォームズの話にも触れながら、受け皿が少ない中学生男子の大会開催に向けた取り組みなどにも言及。選手はもとより、審判員・記録員・放送員など様々な角度から“育成”の重要性を説いた。

審判の部では、ゲームのスピードアップに関するルール改正や、テンポラリーランナーの説明などが行われた。翌日の実技では、ストライクのアクション、投球判定、ローテーション、イリーガルピッチのとり方などについて確認がなされた。一方、記録の部では、第3版が発行されたばかりの新しいスコアリングマニュアルの説明と、これに伴う記帳・点検の演習などが2日間みっちり行われた。

各支部の代表者は、この研修会での伝達事項を消化したうえで、各ブロックや支部伝達研修にて、すべての審判員・記録員に伝達することとなる。国際化に向けた取り組みも進められてきている中ではあるものの、審判員・記録員の高齢化も進んでいるのが実情。若手の育成や、上位種へのチャレンジ意欲を掻き立てるための働きかけも含め、大会を支える人たちの“魅力の伝達”がカギを握っているのではないだろうか。

